


不登校のこどもの
育ちと学びを支える

当事者実態ニーズ
全国調査



12/31

まで!



ひとりの小さな声を
変える力にしていきたい。

対象 ● 不登校の子どもを持つ保護者

● 不登校の子ども ● 不登校元当事者

2024年1月11日(木)
シンポジウム用資料
(2024年1月31日訂正版)

主催：NPO 法人多様な学びプロジェクト

背景

調査の背景課題と目的

- ・ 令和3年度不登校児童・生徒数：4万8,813人増の24万4,940人（過去最多）
- ・ 不登校の中学生の出現率は5%で20人に1人の割合
- ・ 相談や支援を受けられていない子どもは36.3%

※文科省「令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」

調査活動によって不登校児童生徒と保護者の支援ニーズを明らかにし、**行政と民間が連携して効果的な施策を行う**土台やツールをつくることを目的とする。

※本調査では、不登校児童生徒及び保護者、不登校経験者を対象に調査を行うことで、当事者が現状の支援をどのように受け止めているのか、また、必要とする不登校支援について明らかにした。

調査の概要

調査概要

調査タイトル：「不登校のこどもの育ちと学びを支える当事者実態ニーズ全国調査」

調査方法：インターネット調査

調査対象：さみだれ登校や不登校のこどもを育てている保護者／元保護者

さみだれ登校や不登校のこども／不登校経験者（18歳以下）

不登校経験者（19歳以上）

★本調査では文部科学省の学校基本調査における不登校の定義は対象条件に設定せず、さみだれ登校や不登校の状態であると認識している方の声を広く収集した。

調査対象	調査期間	分析対象
さみだれ登校や不登校のこどもを育てている保護者／元保護者	2023年10月6日 ～12月31日	回答数 1,935件 分析対象データ数 1,935件 うち、子どもについての回答数2,529件
さみだれ登校や不登校のこども／不登校経験者（18歳以下）	2023年10月20日 ～12月31日	回答数 475件 分析対象データ数 474件
不登校経験者（19歳以上）	2023年10月13日 ～12月31日	回答数 402件 分析対象データ数 395件

主催：特定非営利活動法人多様な学びプロジェクト

共同研究調査機関：東京学芸大学 教育学部
特別ニーズ教育 教授 加瀬 進

協力学識経験者：

- 朝倉 景樹（TDU-雫穿(てきせん)大学 代表）
- 伊藤 美奈子（国立大学法人奈良女子大学 教授）
- 末 富 芳（日本大学 教授）

調査協力機関：一般社団法人学術・教育総合支援機構

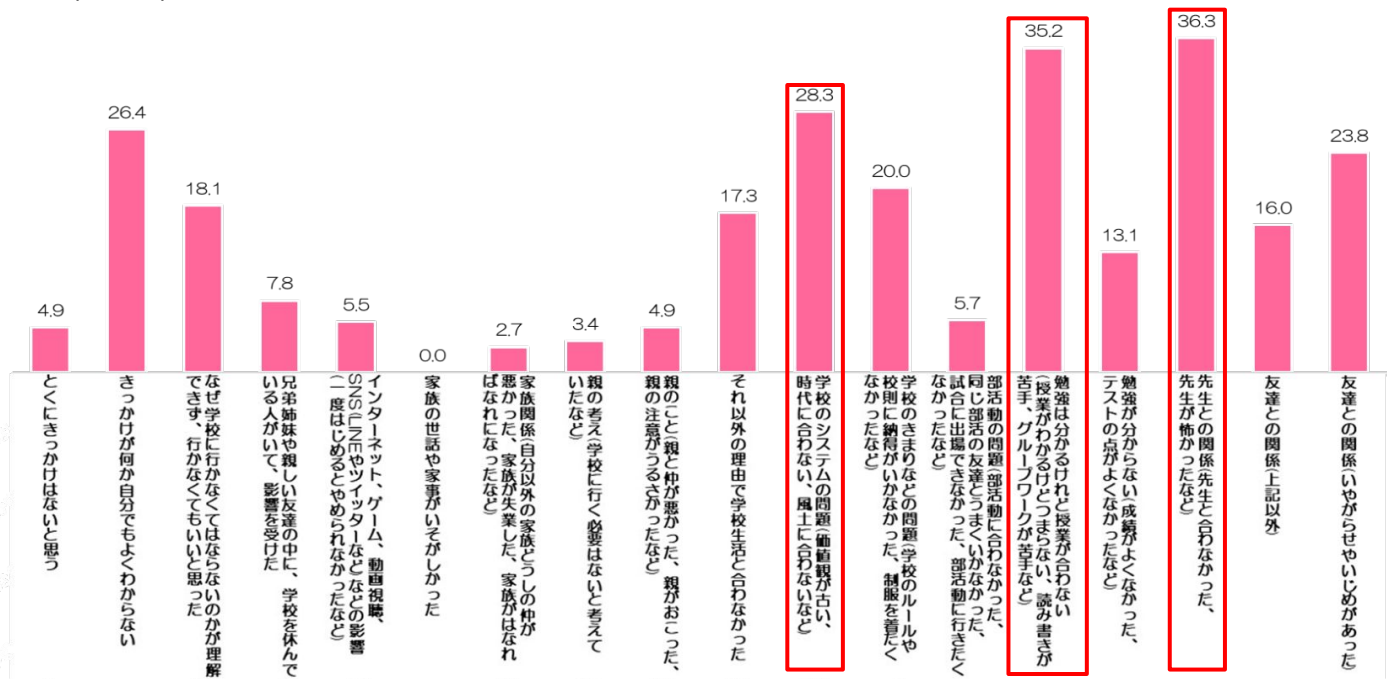
助成：令和5年度 独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業（WAM 助成）

調查結果

こどもが考える学校に行きづらいつ思い始めたきっかけ

学校に行きづらいつ思いはじめたきっかけを教えてください。(n=474) (複数回答)

(%表示)

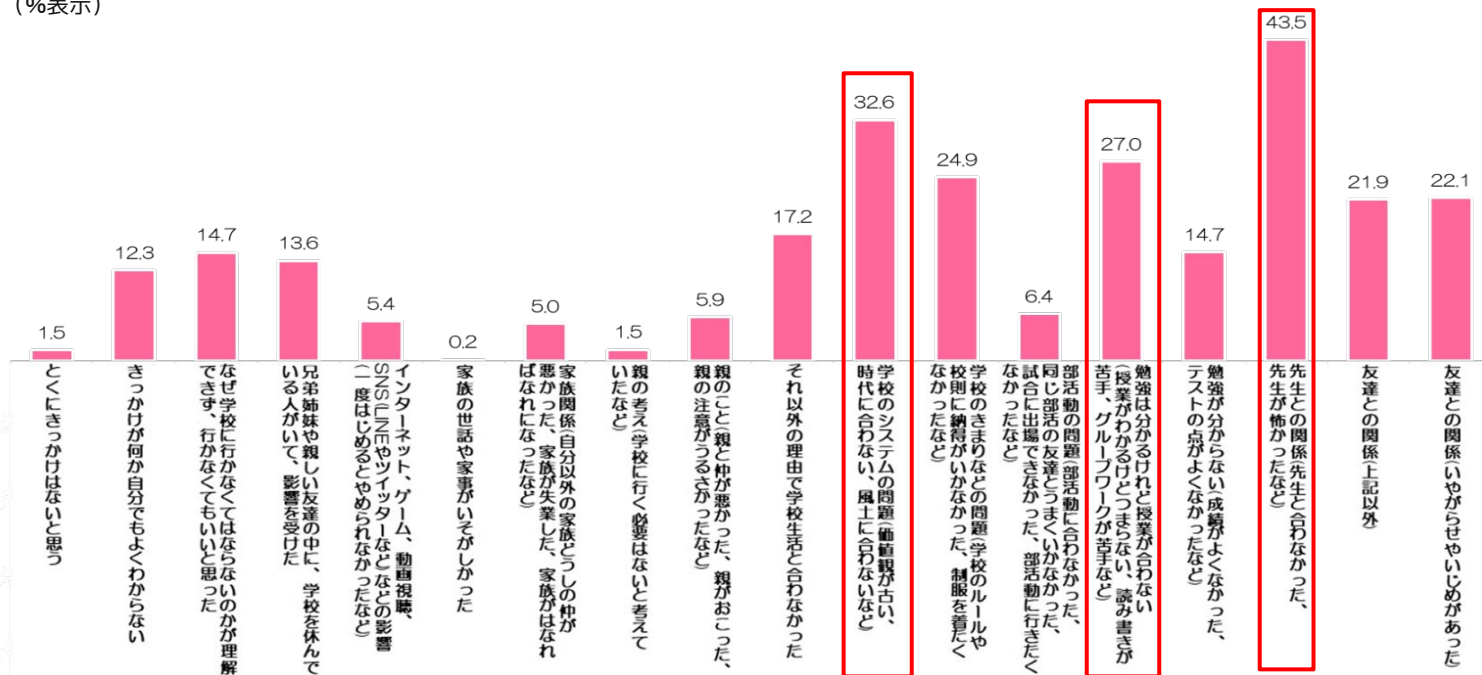


「先生との関係」、「勉強はわかるけど授業が合わない」、「学校システムの問題」が上位3つ。

保護者が考える子どもが学校に行きづらいと思い始めたきっかけ

お子さんが一番最初に学校を休むようになった(休みがちになった)きっかけは何だと考えますか (n=2,530) (複数回答)

(%表示)



「先生との関係」、「学校システムの問題」、「勉強はわかるけど授業が合わない」が上位3つ。

学校に行きづらくなったきっかけのこども、保護者の声

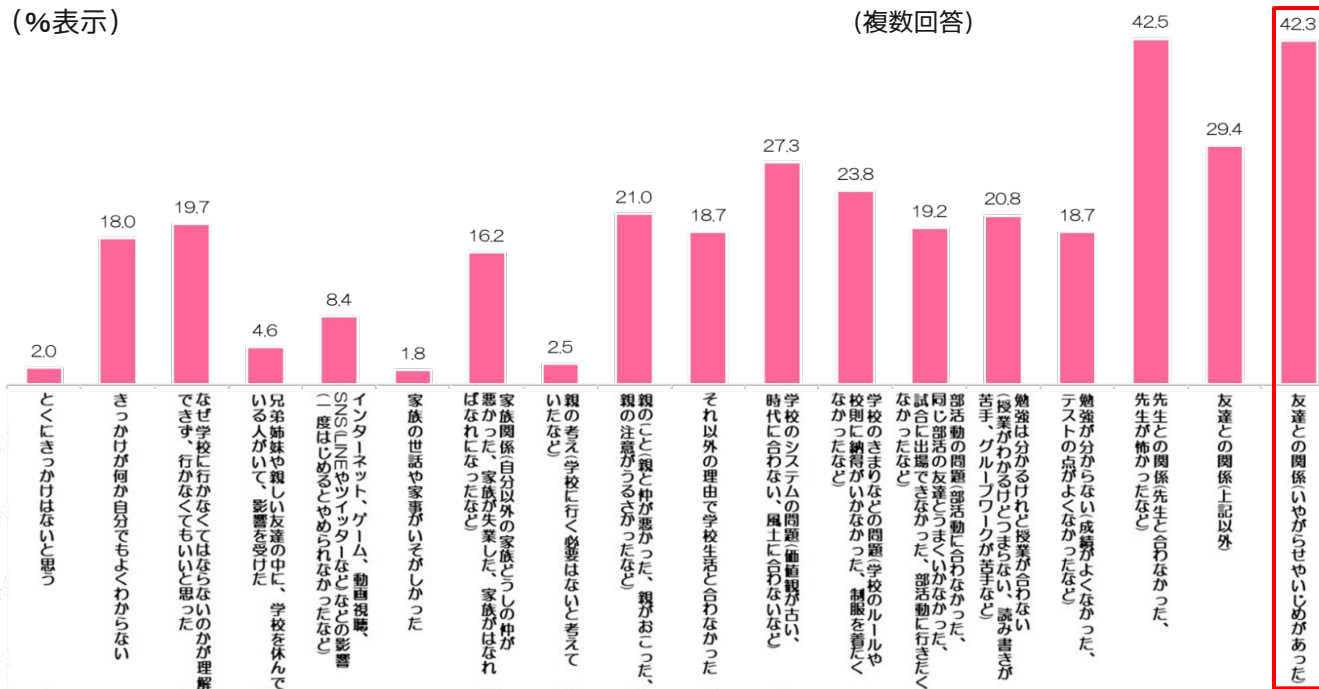
- ・全部先生が決めて、自分では選べないのが嫌です。席も自分で選べないので、苦手な人ばかりの席になって怖かったです。いつも怒られている人がいて、自分ではないけど、それを聞いているのが嫌です。学校はいつも見張られている感じがして緊張する。図工に点数をつけるのはおかしいと思う。学校は忙しくて、時間が足りません。(10才 女児)
- ・つまらないし、ずっと椅子に座ってるのが嫌だった。怒ってる先生を見て、先生に怒られないように気をつけるのが嫌だった。(8才 女児)
- ・先生が、いつもピリピリしていて、怒鳴る場面もあり、息子は怯えたり、先生の理不尽な言動に怒ったりしていました。(40代・小6児童の母・小1から不登校)
- ・担任の先生が余裕のない状況の中で、帰りの支度や物事の切り替えがうまくできない息子に対して、小突いたり手を捻ったりと手をあげることが生じました。(40代・小5児童の母・小2から不登校)
- ・学校が忙しすぎる。分刻みのスケジュールで休み時間も着替えや移動に追われ、トイレに行くのがやっと。とにかく急がされるので子供が疲弊している。先生が忙しすぎてその大変さが子供にも伝わる。(小5児童の母・小4から不登校)

不登校経験者が考える学校に行きづらいついと思い始めたきっかけ

学校に行きづらいつい思い始めたきっかけを教えてください。(n=395)

(%表示)

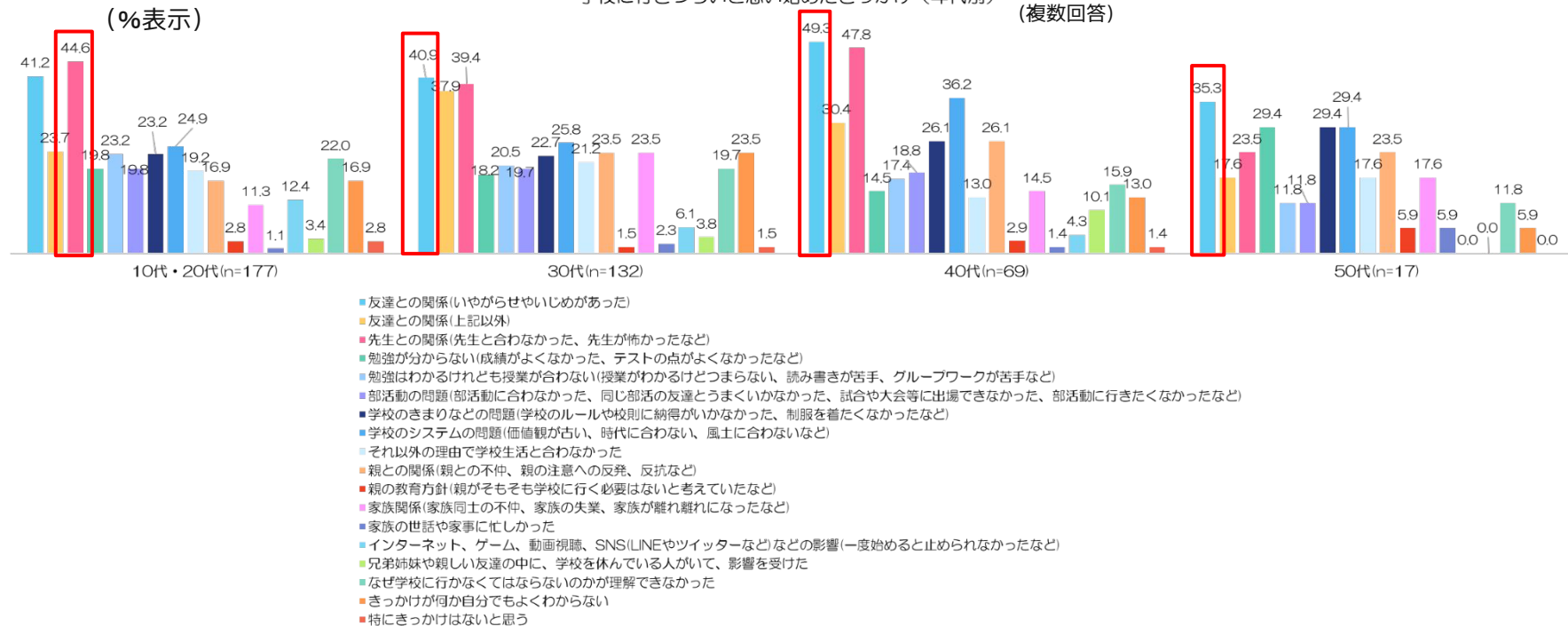
(複数回答)



不登校経験者の回答では「友達との関係 (いじめやいやがらせがあった)」が
こども、保護者の回答と比べて高い

不登校経験者の年代によるきっかけの変化

学校に行きづらいつと思い始めたきっかけ（年代別）



30代から50代までは「友達との関係（いじめやいやがらせがあった）」が1位だが、10代・20代になると「先生との関係」が1位。近年の不登校のきっかけに変化が起きている可能性がある。

不登校の要因 他調査比較

	不登校児童生徒数	学校に係る状況							家庭に係る状況			本人に係る状況		左記に該当なし	
		いじめ	いじめを除く友人関係をめぐる問題	教職員との関係をめぐる問題	学業の不振	進路に係る不安	クラブ活動、部活動等への不適応	学校のきまり等をめぐる問題	入学、転編入学、進級時の不適応	家庭の生活環境の急激な変化	親子の関わり方	家庭内の不和	生活リズムの乱れ、あそび、非行		無気力、不安
小学校	105,112	318 0.3%	6,912 6.6%	1,901 1.8%	3,376 3.2%	277 0.3%	30 0.0%	786 0.7%	1,914 1.8%	3,379 3.2%	12,746 12.1%	1,599 1.5%	13,209 12.6%	53,472 50.9%	5,193 4.9%
中学校	193,936	356 0.2%	20,598 10.6%	1,706 0.9%	11,169 5.8%	1,837 0.9%	839 0.4%	1,315 0.7%	7,389 3.8%	4,343 2.2%	9,441 4.9%	3,232 1.7%	20,790 10.7%	101,300 52.2%	9,621 5.0%
合計	299,048	674 0.2%	27,510 9.2%	3,607 1.2%	14,545 4.9%	2,114 0.7%	869 0.3%	2,101 0.7%	9,303 3.1%	7,722 2.6%	22,187 7.4%	4,831 1.6%	33,999 11.4%	154,772 51.8%	14,814 5.0%

※「長期欠席者の状況」で「不登校」と回答した児童生徒全員につき、主たる要因1つを選択。

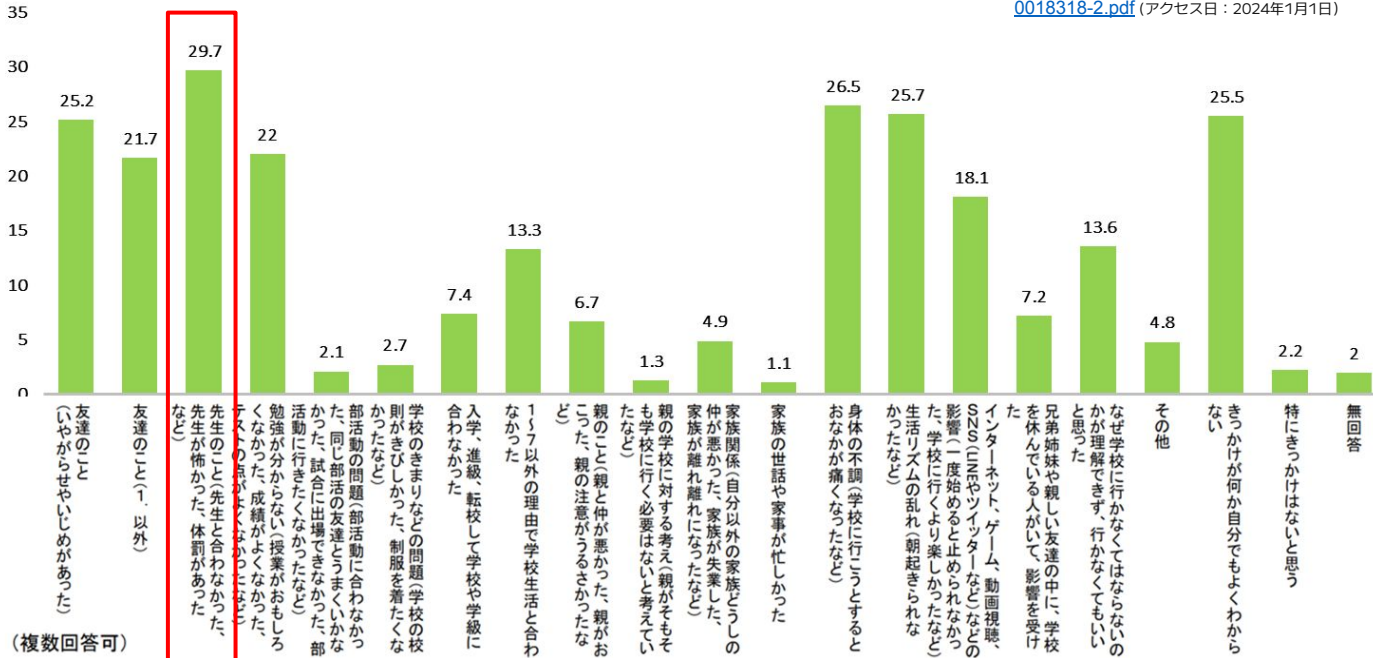
※下段は不登校児童生徒数に対する割合。

文科省 令和4年度不登校問題行動調査（教員回答）では「無気力・不安」が51.8%で1位
教職員との関係をめぐる問題は1.2%にとどまる。

学校にいきづらくなったきっかけ 他調査比較

学校に行きづらくなったきっかけ

「令和2年度不登校児童生徒の実態調査 結果の概要」より作成
https://www.mext.go.jp/content/20211006-mxt_jidou02-000018318-2.pdf (アクセス日：2024年1月1日)



文科省の令和2年度不登校児童生徒の実態調査でも小学生本人にきいた「学校に行きづらくなったきっかけ」の1位は「先生とのこと(29.7%)」だった。

教員の忙しさが背景にある可能性も

精神疾患による病気休職者の学校種別・性別・職種別・年代別状況（教育職員）（過去5年間）

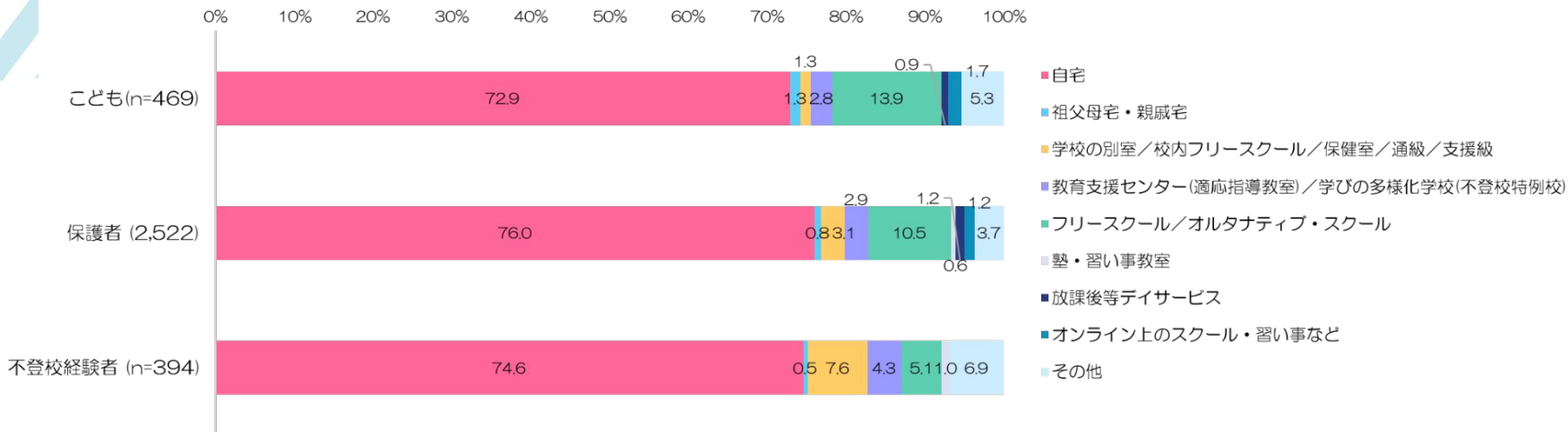
	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度		R4年度	
小学校	2,421人	0.59%	2,647人	0.64%	2,541人	0.61%	2,937人	0.71%	3,202人	0.77%
中学校	1,361人	0.59%	1,387人	0.60%	1,272人	0.55%	1,415人	0.61%	1,576人	0.68%
義務教育学校	12人	0.41%	21人	0.62%	22人	0.52%	21人	0.41%	25人	0.41%
高等学校	756人	0.41%	768人	0.42%	717人	0.40%	742人	0.42%	849人	0.49%
中等教育学校	5人	0.28%	6人	0.34%	6人	0.33%	10人	0.54%	15人	0.80%
特別支援学校	657人	0.74%	649人	0.72%	645人	0.72%	772人	0.85%	872人	0.96%
計	5,212人	0.57%	5,478人	0.59%	5,203人	0.57%	5,897人	0.64%	6,539人	0.71%

令和4年度公立学校教職員の人事行政状況調査結果, 1-1-4 精神疾患による病気休職者の学校種別・性別・職種別・年代別状況（過去5年間）, https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/jinji/1411820_00007.htm, 2024年1月10日アクセス

文科省令和4年度「[公立学校教職員の人事行政状況調査](#)」では、精神疾患を理由に病気休職した公立の小中高校、特別支援学校などの教職員数は、過去最多の6,539人(全教育職員数の0.71%)にのぼっており、先生が窮状に陥っていることが分かり、バックアップする体制の拡充が急務であることがうかがえる。

主にどこですごしているか

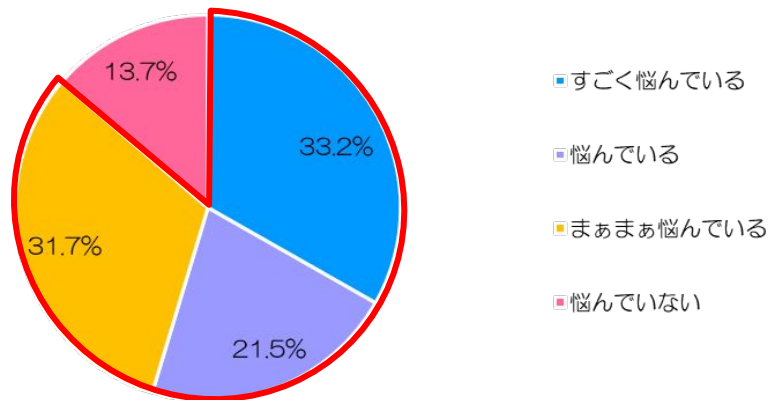
不登校期間中、主に過ごしていた場所



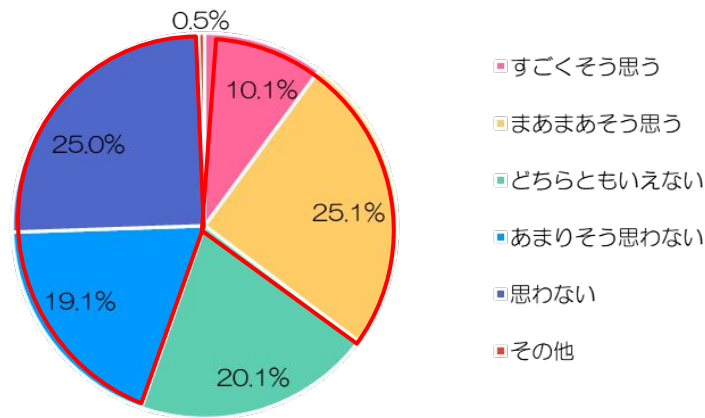
「不登校期間中を主にどこですごしているか/過ごしていたか」については、こども、保護者、不登校経験者いずれも75%前後が「自宅」がであり、家庭が受け皿になっている(いた)ことがうかがえる。

子どもへの対応や将来について悩んでいる保護者は全体の8割を超える

現在子どもへの対応または子どもの将来について
どれくらい悩んでいますか (n=1,930)

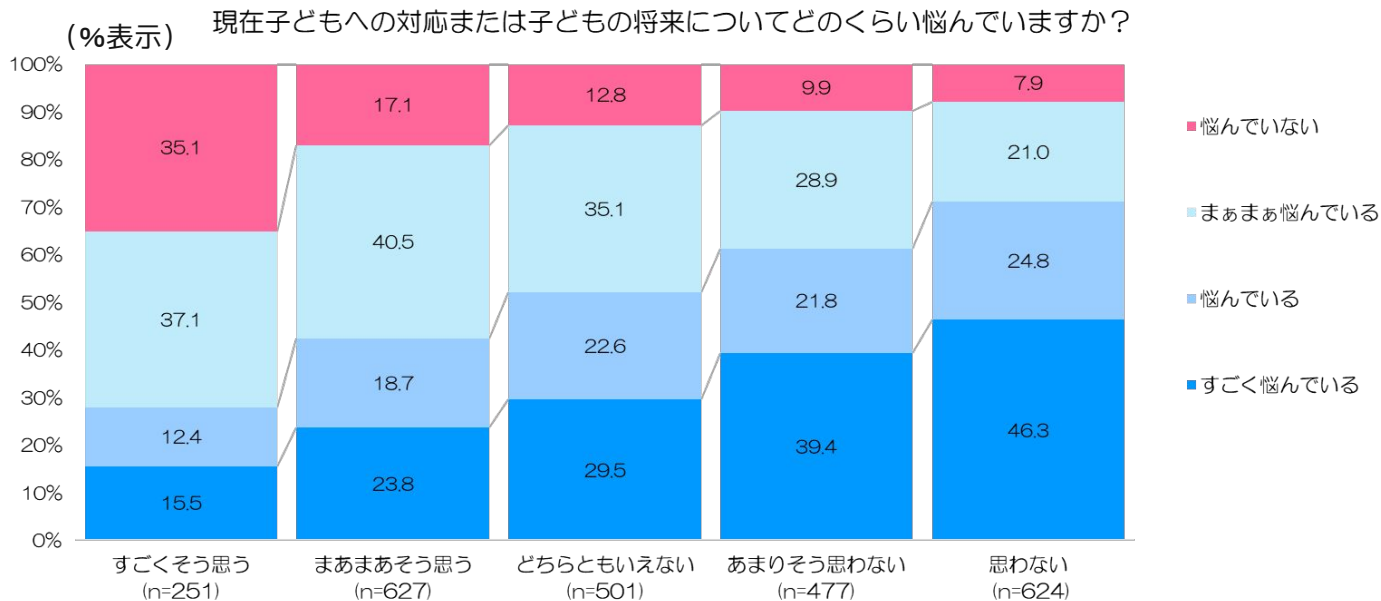


お子さん本人にとって適切な居場所(学校含む)に
出会っていると思いますか? (n=2,499)



「現在子どもへの対応または子どもの将来について」、「すごく悩んでいる」「悩んでいる」「まあまあ悩んでいる」を合わせると86.3%に達した。また、「お子さん本人にとって適切な居場所(学校含む)に出会っていると思いますか?」に対しては「思わない」「あまりそう思わない」の合計が44.1%になり、「すごくそう思う」「まあまあそう思う」の合計35.3%を上回った。

適切な居場所と子どもの対応について

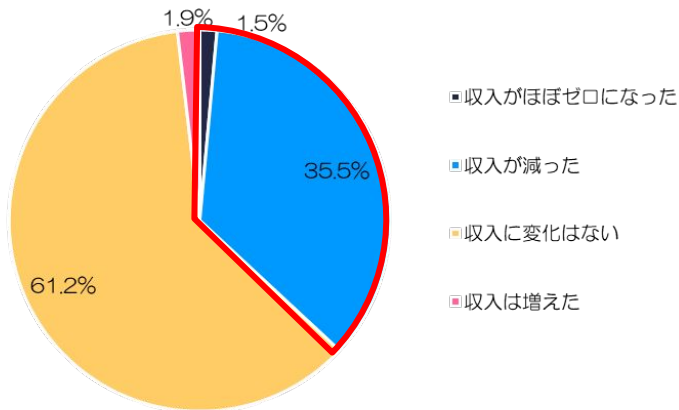


お子さん本人にとって適切な居場所(学校含む)に出会っていると思いますか？

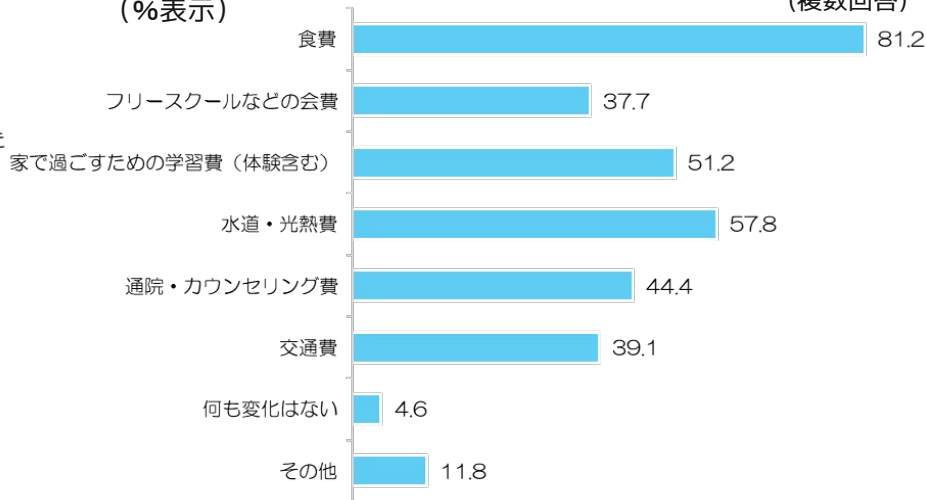
保護者から見て、子どもが適切な居場所に出会っていることと、子どもの対応や将来への悩みは関連することがうかがえた。一方で、適切な居場所に出会っていても「悩んでいる」と回答した保護者も64.9%おり、保護者支援がさまざまな形で必要なことがうかがえた。

こどもの不登校をきっかけに世帯年収が減ったと回答した保護者は4割近く 一方95%の保護者が支出が増えたと回答

お子さんの不登校をきっかけに
世帯年収は変化しましたか？ (n=1,929)



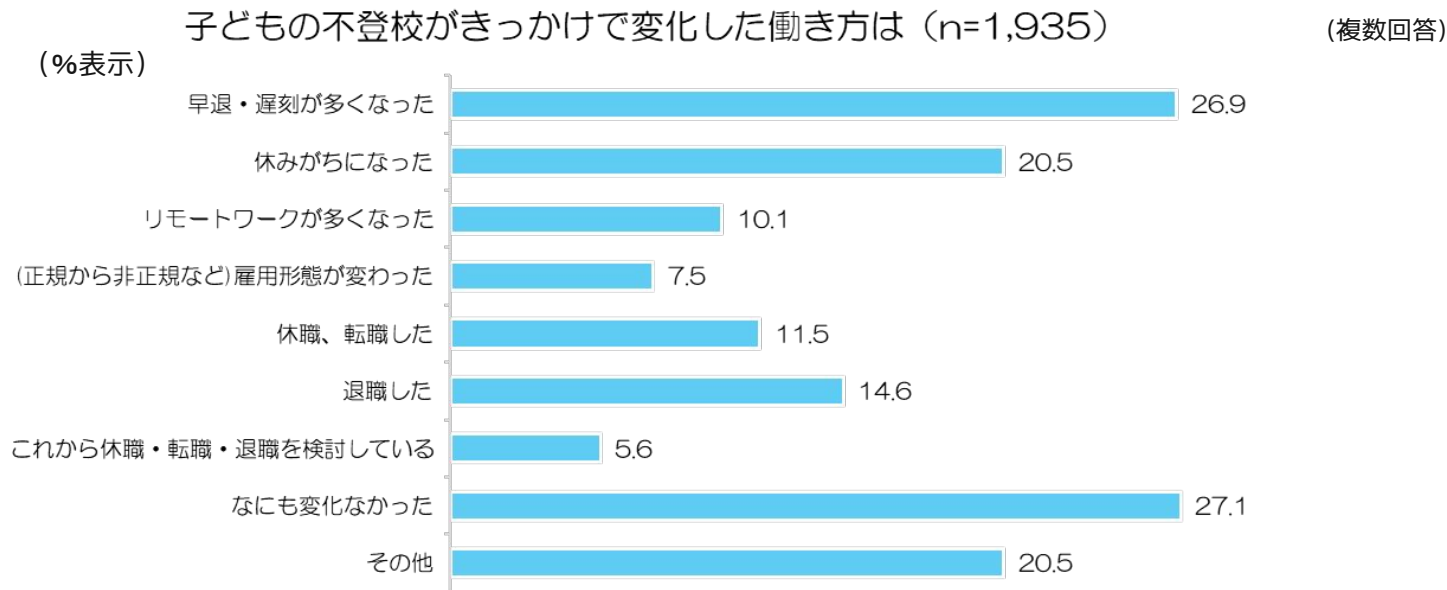
不登校をきっかけとした以下の支出はありますか (n=1,935)
(%表示) (複数回答)



全体の95.0%がいずれかの支出があると回答した。

36.9%の保護者が「こどもの不登校をきっかけに世帯年収が減った（「収入がほぼゼロになった」と「収入が減った」の合計）」と回答した。また95%の保護者が「不登校をきっかけに支出があった」と回答した。

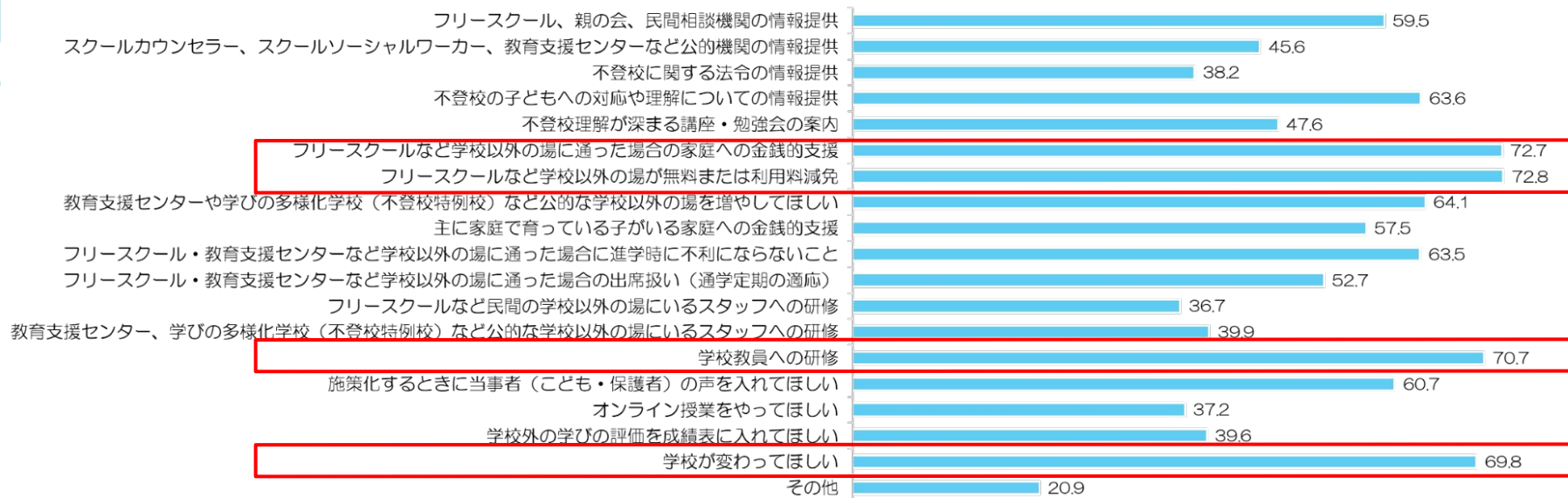
こどもの不登校をきっかけとして働き方に何らかの影響があった保護者は7割



「早退・遅刻が増えた」「休みがちになった」「雇用形態が変わった」「休職、転職した」「退職した」「これから休職・転職・退職を検討している」と回答した割合が多く、こどもの不登校をきっかけに、収入にかかわる働き方の変化があった・あることがうかがえる。雇用形態の変化とリモートワーク、転職の背景には、働き方の変更を余儀なくされた事情がうかがえる。

保護者が行政に望むもの

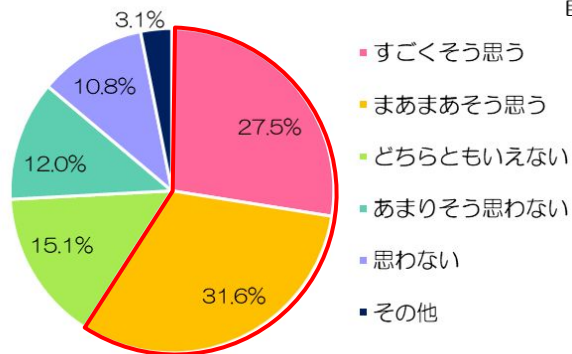
(%表示) あなたが行政に望むものを選んでください (n=1,935) (複数回答)



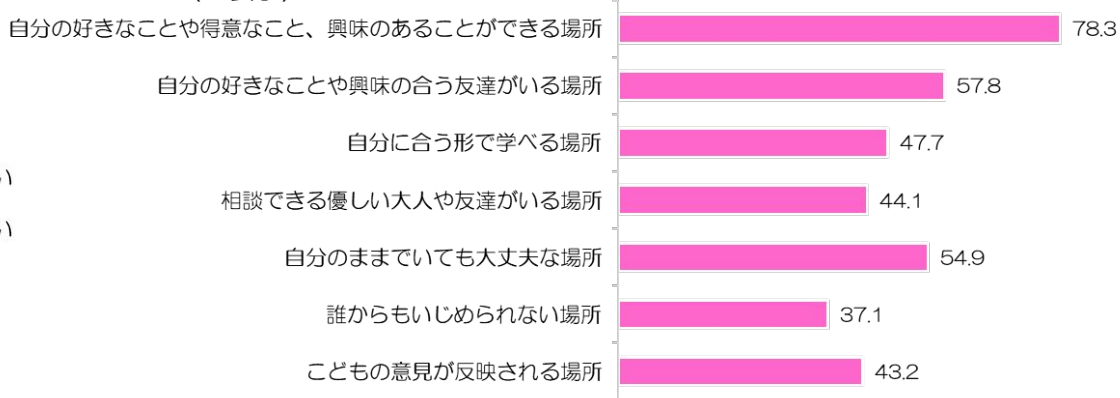
上位2位は「フリースクールなど学校以外の場が無料または利用料減免（72.8%）」と「フリースクールなど学校以外の場に通った場合の家庭への金銭的支援（72.7%）」という民間施設に通う費用負担へのニーズが高い。3位が「学校教員への研修（70.7%）」、4位が「学校が変わってほしい（69.8%）」と公教育への要望も多い。

あう場所に出会っているか／どんな場所にいきたいか

あなたにとってあなたにあう場所(学校ふくむ)に出会っていると思いますか？(n=418)

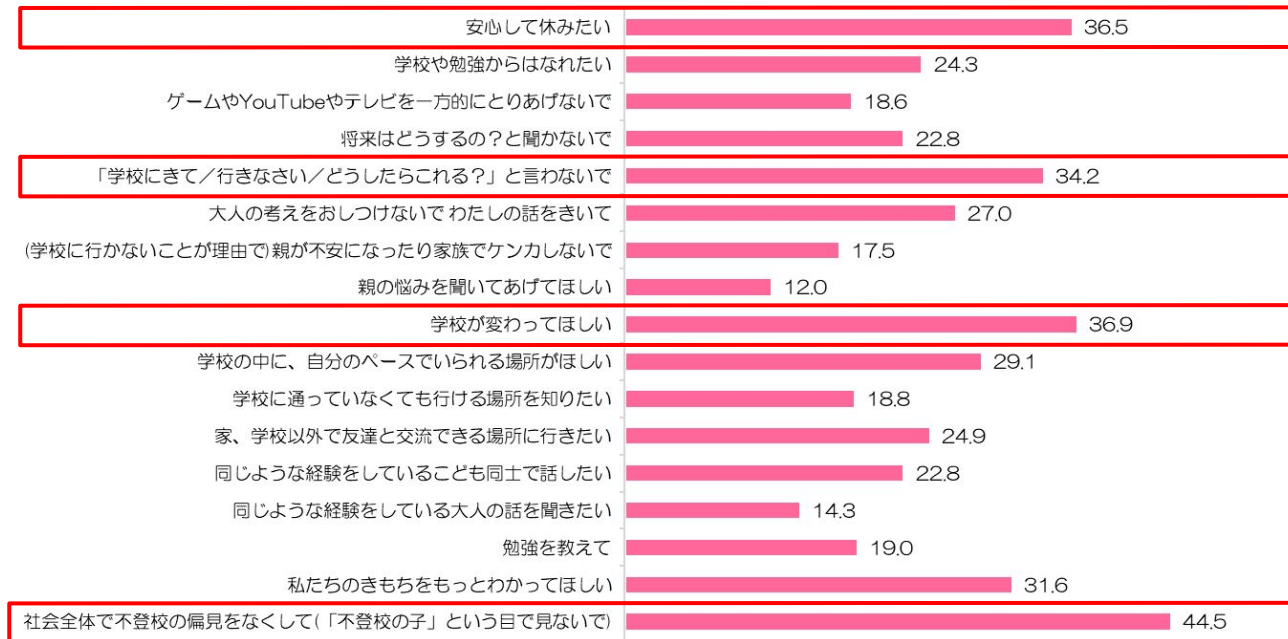


どんな場所があったら行きたいですか (n=474) (複数回答)
(%表示)



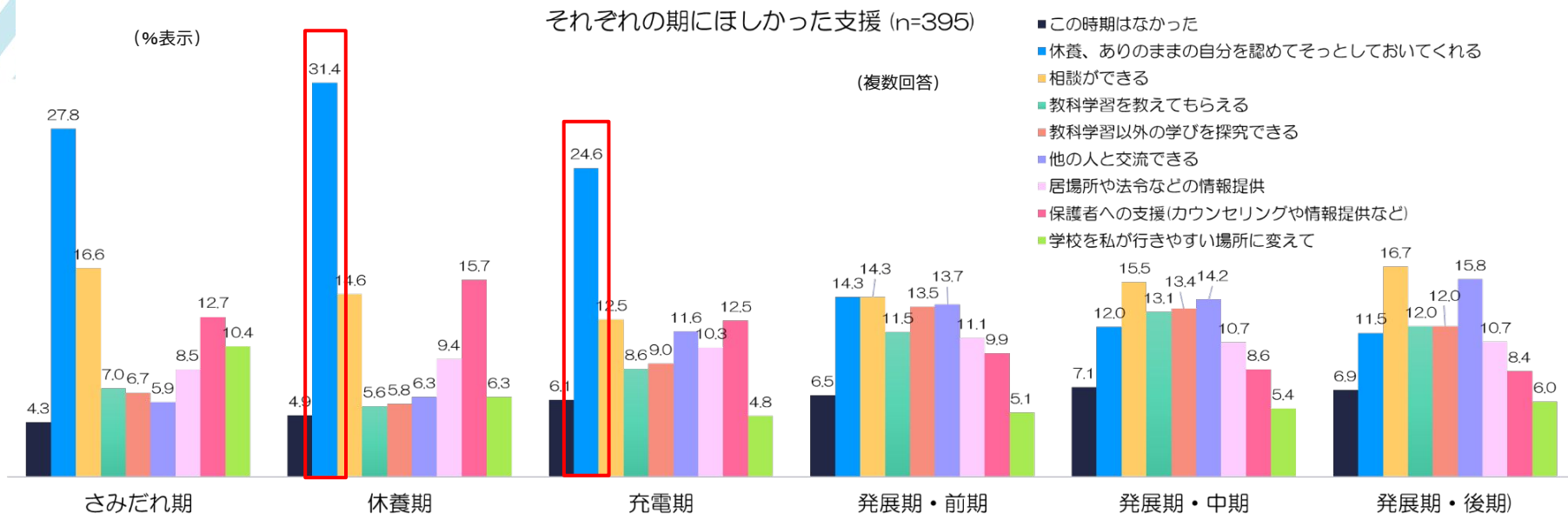
こども本人に聞いた「あう場所に出会っているか」は、「すごくそう思う」「まあまあそう思う」と合わせると59.1%で、「あまりそう思わない」「思わない」の合計22.7%を上回り、保護者の回答傾向とやや違いがみられた。また、行きたい場所について聞いたところ、「自分の好きなこと、興味のあることができる場所 (78.8%)」、「自分の好きなことや興味の合う友達がいる場所 (57.8%)」、「自分のままでいても大丈夫な場所 (54.9%)」、「自分に合う形で学べる場所 (43.2%)」の順で高かった。

(%表示) あなたの今の気持ちに近いものにすべてチェックしてください。(n=474) (複数回答)



「社会全体で不登校の偏見をなくして」が1位(44.5%)、「学校が変わってほしい」が2位(36.9%)だった。「安心して休みたい」、「登校刺激をしないでほしい」、というニーズも次いで高かった。

不登校経験者からみる 期に応じたニーズ変化



不登校になったばかりの時期（休養期）にほしかった支援については、「休養、ありのままの自分を認めてそっとしておいてくれる」が全体の3割を超えた。休養期は、「保護者への支援」のニーズも15.7%とやや高かった。他者との交流や学習ニーズは充電期以降から徐々に増えてくる傾向。

現在利用している施設やサービスとニーズ

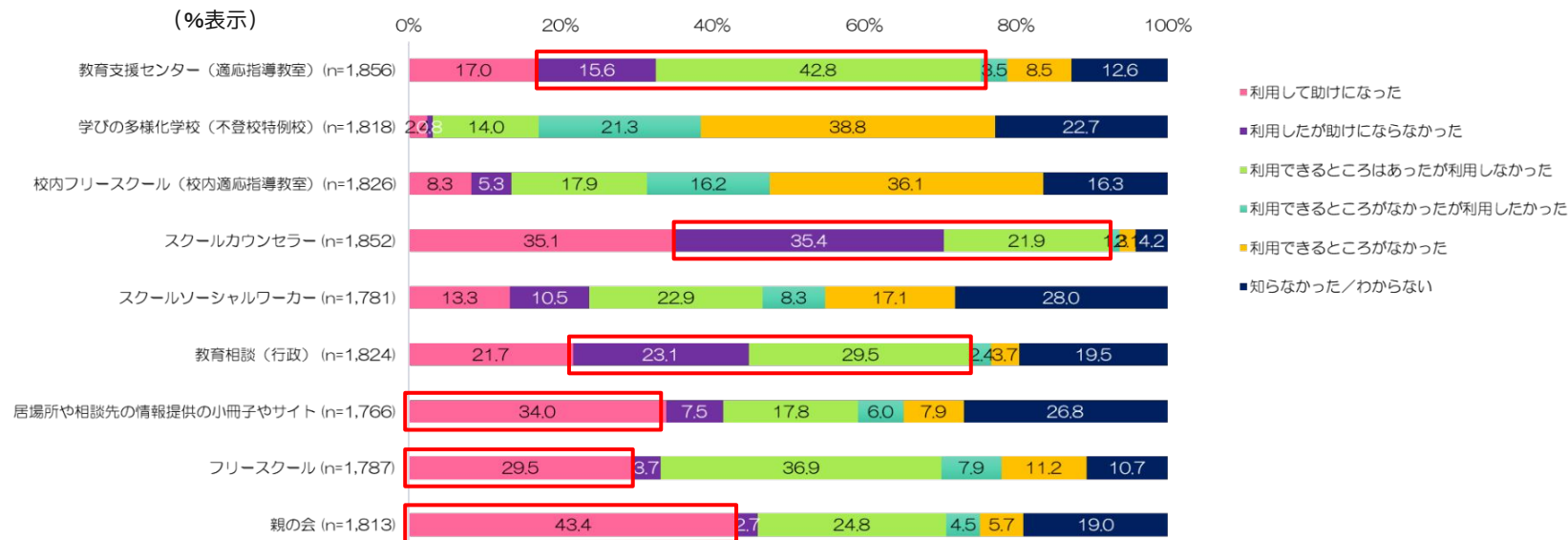
現在利用しているものについて、その状況に当てはまるもの
(%表示)



施設別に「利用して助けになった／なっている」と「利用したが助けにならなかった」の割合を比較してみると、フリースクールやオンラインの居場所は「利用して助けになった／なっている」という評価が高い。一方で保健室や別室など校内の居場所、スクールカウンセラー／スクールソーシャルワーカー、教育支援センターの場合、その割合が拮抗している。またいずれの施設も「利用できるところはあるが利用していない」という回答が2割程度あり、施策と当事者ニーズとのギャップがあることが明らかになった。オンラインの居場所はX (Twitter) などSNSの記述もあり、大人が想定しやすいものだけではなかった。

支援の利用実態とニーズ

現在利用しているものについて、その状況に当てはまるものにチェックしてください。



保護者において施設別に「利用して助けになった／なっている」と「利用したが助けにならなかった」の割合を比較してみると、フリースクールや親の会、情報提供の冊子やサイトは「助けになっている」という評価が高い。一方で、教育支援センター、教育相談、スクールカウンセラー／スクールソーシャルワーカーは「利用したが助けにならなかった」という割合も高く、施設や窓口、専門職の対応に地域や個人の差があり、施策と当事者ニーズとのギャップも生じていることが明らかになった。

現在利用している施設やサービスとニーズ（自由記述）

（アンケート自由記述設問「具体的なエピソードや理由」の回答より抜粋）

《教育支援センター》

保護者

- ・ 自学自習ができないと入れませんと言われ申し込みも出来ない。（40代・小4,小2児童の母）
- ・ 支援者が元教員の方が多いためか学校に戻ろうとさせる空気感を感じて行かないと本人が言っています。（40代・中2生徒の母）
- ・ 私服で自由な時間に行けて帰ることもでき、家とも学校とも違う場に行く事で、親子で安心できている。感謝している。

（50代・中1生徒の母）

こども

- ・ 出席日数の圧力がすごい。警察の事情聴取みたいに家庭の話聞いてくる。話たくないのに無理矢理。（15才女兒）
- ・ 勉強ができないと来てはいけないと言われた。（14才男児）
- ・ 学校へ戻れるようにという空気感がありしんどい。場所が近くの中学校内で不安、居心地が悪い。（12才男児）
- ・ 安心して居られる。同じような気持ちを分かり合える友達が出来た。（12才男児）
- ・ 家以外の場所、外に出たかったから。不登校、行き渋りに理解がある人が居てくれるから。（12才女兒）

《保健室や別室など学校の中の自分のクラス以外の居場所》こども

- ・ 学校という場所が不安、安心出来る場所ではないから。（12才男児）
- ・ 自分の学校の中に入りたくない。他の生徒と違う行動をしているから、目立つだろうから、見られるのが嫌。（13才男児）
- ・ 保健室で休んでいても、授業に出よう？と言われる。（12才女兒）
- ・ 静かで、おちつく、誰も責めたりしない。（11才男児）
- ・ 自分がやりたい事、できる事がやれるから行っている。（8才女兒）
- ・ 自分のペースで休んだり勉強できたりして、自分の心が安らぐ場所だったからです。（15才男児）

現在利用している施設やサービスとニーズ（自由記述）

（アンケート自由記述設問「具体的なエピソードや理由」の回答より抜粋）

《スクールカウンセラー》

保護者

- ・話を聞くだけで、何もしてくれない。既にこちらの知っている位のことしか情報を持っていない。下手をすると、法令についてこちらが教えるようなこともあり、そんな時は何のためにこの時間を使ったのかと虚しく思い、孤立を感じてしまう。(50代・小5児童の母)
- ・傾聴のみでアドバイスがなく意味がなかった。(高2・中1生徒の母)
- ・親の考えを受け止めつつ、アドバイスしてくれて今のおかれた状況を、受け止めやすくなった。(40代・中1生徒の母)

こども

- ・楽しくお話は出来るけれど、それだけで終わってしまう。(8才女児)
- ・相談した内容について「先生に言うておくね」としか言われなかった。当事者の気持ちがわかる人が欲しかった。(12才女児)
- ・スクールカウンセラーに話した内容が担任に漏れていて嫌なことを言われた。(15才男児)
- ・話すと落ち着く。(12才女児)
- ・優しくしてくれたり、大丈夫だよと言ってくれた。(11才女児)

《教育相談(行政)》

保護者

- ・子供に関わることで助けになった(情報ももらえたり、支援をしてもらえたり)ことがほとんどない。(40代・小4,小2児童の母)
- ・その他の学び場、居場所などの情報を何も知らなかった。(40代・小6児童の母)
- ・毎月話を聞いてもらっている。情報ももらえるので助かっている。(30代・小1児童の母)

（アンケート自由記述設問「具体的なエピソードや理由」の回答より抜粋）

《フリースクール》

保護者

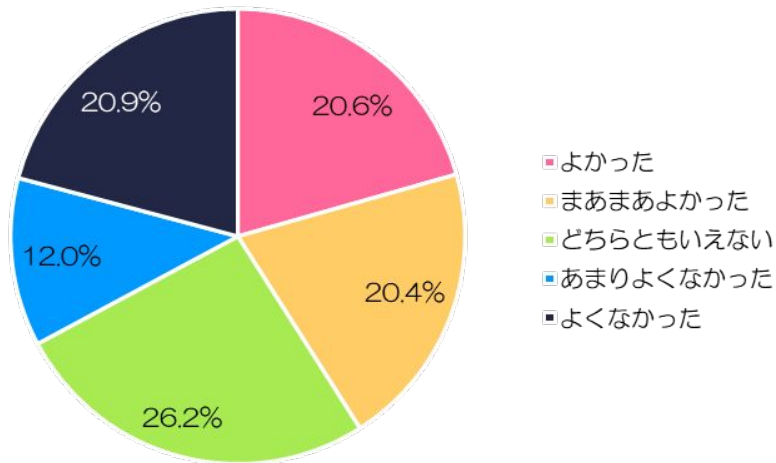
- ・親子セットでケアしていただいた。また、担任とのやりとりに困っていた中、間に入ってくれた。その場に行った子どもが、自分だけじゃないと感じられたこと。（30代小5児童の母）
- ・子ども達が生き生きと生きられる場所に出会えて助かった。（40代中1児童の母）
- ・情報が少ないので自分で必死に探して、色々なところを試してやっとの思いで繋がって、子どもにとっては信頼できる親以外の大人と出会ったり、同じ立場の子どもと出会って救われた。（50代小6児童母）
- ・近くにない、送迎できない、高額。（40代小4児童の母）

こども

- ・好きなだけ自分のペースで勉強を進めたり、友達を遊んだりすることができる。（14才男児）
- ・安心して通える場所だから。（12才男児）
- ・一年生から通えるところはなかった、親の送迎ができなかった。（8才女児）
- ・ママの体力を使わせたくない。（7才男児）

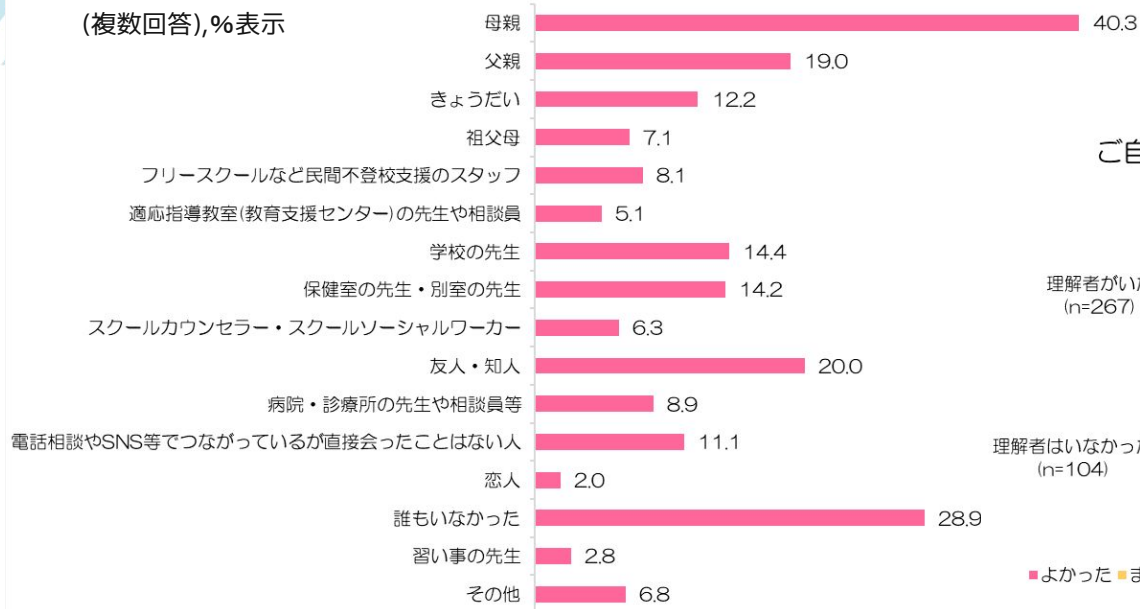
不登校経験についてどう感じているか

現在、ご自身の不登校経験について
どう感じていますか。(n=395)

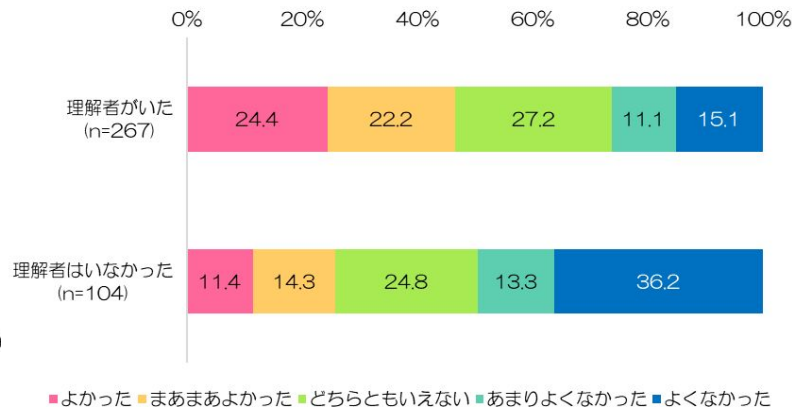


アンケート回答者では、「よかった」と「まあまあよかった」の合計が「あまりよくなかった」「よくなかった」の合計より8.1ポイント高い。

あなたが不登校や学校に行きづらかった時、
あなたのことをよく理解してくれている人はいましたか。(n=395)

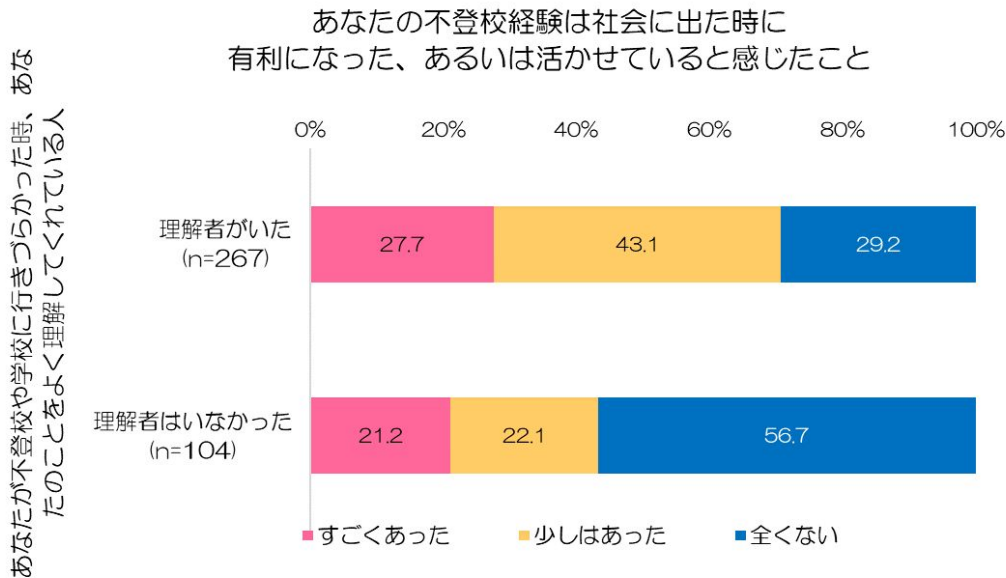


あなたは現在、
ご自身の不登校経験についてどう感じていますか。



理解してくれる人では母親が最も多く、保護者支援が重要であることがうかがえる。また「誰もいなかった」も3割弱である。不登校や学校に行きづらかった時代に「理解者がいた」と回答した人は「理解者がいなかった」と回答した人よりも、不登校経験について「よかった」「まあまあよかった」と回答した割合が高い傾向がみられた。

不登校経験について



不登校や学校に行きづらかった時代に「理解者がいた」と回答した人は「理解者がいなかった」と回答した人よりも、「不登校経験が有利になった、あるいは活かせている」と感じている割合が高い傾向がみられた。

アンケートに協力してくれた子どもたちは、沢山のメッセージを寄せてくれました。その一部を紹介します。

- ・休んでも良いんだよ。私だってやすんでるよ。(8歳女兒)
- ・小学校5年生から中学三年間学校に行っていなかったけど、今高校めっちゃ楽しいし勉強も意外となんとかなるよ。(17歳男児)
- ・学校が全てじゃない、とよく聞くけれど、わたしは最近までその言葉の真意を深く理解していなかったと思います。学校が全てだと思っていました。その道から外れたら、なんてしっかり考えたことはなかったけれど、漠然とした恐怖がありました。でも、案外飛び出してみるのも悪くなかった。怖がらなくて大丈夫です。怖がっても大丈夫です。その感情はきっと、大事なものだと思います。(15歳女兒)
- ・学校に行きたくない時、「嫌だな」と思いながら行くよりは、家でテレビを観たり、好きなことをして、「今日は楽しかったな」と思って下さい。途中で学校に行きたいと思えば行けばいいし、行きたくないのならそのままいいです。行くか行かないか決めるのは、世の中や親ではなく、あなたです。今、不幸だと思うなら、あなたが幸せだと思える場所を探して下さい。家でも、田舎でも、遠い外国でも、幸せだと思えるなら、そこがあなたにとって一番いい場所です。それを探して下さい。(14歳男児)
- ・選択というと「何かをする」というイメージに繋がりがやすいですが、「これはしない」や「何もしない」という選択も非常に大事だと思っています。たくさん選択肢から、急がず焦らず、自分の経験と直感と考えを信じて色々なこと(もちろん何もしないことを含めて!)を試してみてくださいはどうか。(16歳女兒)